

別添資料-2 「駄賃付馬子唄と解説」

「 駄 賃 付 馬 子 唄 」

当時の荷馬車^ひ輓きの風情を物語る「駄賃付馬子唄」という詩があるので紹介します。

1. 万世大路^{ばんせいたいろ} 石たたみ
馬よ気をつけよ、足ともに
※石たたみとは、旧スズラン通りに内務省で施工した特殊な
コンクリート舗装（表面が石を磨いたように見える）のことと
思われる。昭和6年、当時の国道5号、4号分岐点。
2. 手綱^{たづな}両手に すげ笠かぶり
手っこきやはんに、わらじ履き
※すげ笠…菅(スゲ)の茎や葉で編んだ円錐形の笠
※手っこきやはん…手^{てっこう}甲と脚絆^{きまはん}
3. 成出^{なりいで}越えれば登り坂
急げや急げ、日が暮れる
※成出…現在の北沢又を過ぎ、笹谷地区入口あたりの地名
4. 日もし堰場^{せきば}で、鞭^{むち}うちかけりや
馬もいなく、車もきしむ
※堰場…福島からの万世大路と飯坂からの旧中野街道の中野
合流地点付近（現在の国道13号は往時の合流点は通ら
ない）
5. 暗いトンネル^{たいまつ} 松明たより
山神橋^{さんじんばし}のあのたもと
※暗いトンネル…旧高平隧道と思われる
※山神橋…杉の平の終点(大滝側)に在る旧橋（昔は木造の土橋）
6. つむぎキセルで一息^{つむぎ}つけば
月もほほ笑み 流れも踊る
※つむぎキセル…きざみタバコを紡ぎ、煙管^{きせる}に詰めて吸う様
7. 長い出来沼^{できぬま}、大桁^{おおげた}がんげ
でこぼこ道の登り坂
※出来沼…現在の中野第1,2トンネルの背後にあたる旧万世大路
の地名
ここに沼が在った記憶はないが、山神橋を過ぎ、大桁・出来沼
から中野銅山(現中野第2トンネル大滝側出口川向付近)入口
迄は急峻な長い上り坂の悪路だった。
※大桁…明治の頃は^{大桁}洞門(29m程)が有り、その後切通しとな
った。
※がんげ…崖(がけ)の大滝弁…この辺りは断崖絶壁でいつも落石して
いた。

8. 万太郎^{まんたろ}越えれば、福寿草山^{ふくじゆそやま}の
ひとり湧く水、手酌で飲ませ

※万太郎^{まんたろ}…現在の中野第二トンネル大滝側出口から数百 m 位先右側に
佐藤万太郎家が一軒だけポツンと在り往來の目印になって
いた。

注 [『万世大路事業誌』(明治 14 年福島県土木課編)の「雑記之部」
の中に、万太郎^{まんたろ}沢というものが、当該万太郎箇所付近と思われる
順序で他の沢と共に列記されている。
このことから万太郎^{まんたろ}というのは、人名の佐藤万太郎氏を指すと
いうよりも元々の地名である可能性もある。]

※福寿草山^{ふくじゆそやま}…現在の国道 13 号から大滝に下りる右手の山
(山に自生していた福寿草は国道 13 号の工事で消滅)

●万太郎や福寿草山のルビは大滝では単語の末尾の「う」や「わ」を
発音しない言葉の習慣が有り、あえてルビもそのように表記した。
(「手っ^てこ」や「まんじゅ^{じゆ}屋」も末尾省略形、その他 いら^い沢、西川^{にしが}、
菱川^{ひしが}、小川^{おが}滝、烏川^{からすが}、霞^{よし}沢…等々)

※ひとり湧く水…旧万世大路を大滝に入るとすぐ右側に
福寿草山の山肌から岩清水が湧き出していた。

9. 馬のたてがみ、撫でながら
曲がり曲がれば、まんじゅ屋見える

※まんじゅ屋…旧吉田富三郎氏宅
(明治末から大正時代まで、吉田家では饅頭^{まんじゆ}を作り川向いの
大滝銅山の労働者相手に売っていたので、廃村まで通称
まんじゅ屋さんとおっていた。)

10. 葭沢橋^{よしざわばし}をば、馬方節で
曲がり角から、大滝見える

11. 「ちゃん今かい」
これがわが家だ大滝だ

※ちゃん…お父さん^{とう} (父ちゃん^{ちちちゃん}の省略語)

12. 明日は栗子の^{おおだいら}大平
慈悲^{めぐみ}の恵をいただいて
三代続いた馬方節よ。

(荷馬車^{かばくら}輓き三代続いた大滝・蒲倉家のご出身
奥野ミサオさんによる。『わが大滝の記録』誌 5 頁より)

(注) ・上記の※印注釈は大滝会ホームページ管理人(紺野文英氏)による(一部鹿摩)。
・馬子唄は旧万世大路を福島から大滝に向かう道順で詠まれている。
・当該資料は当日見学者へ配付したものである。

—— [別添資料-3 へ](#) ——

—— [別添資料-1 へ戻る](#) ——

—— [本文へ戻る](#) ——